

パトロールグループ

里山の今

花だより

◆ならやま観察路の整備

小島 武雄



◆竹と竹の子

坪井 都子

2017年から3年間にわたり、「花王・みんなの森づくり活動助成」の助成金を受けて、観察路整備用の資材や備品をそろえることができました。また計画的な観察路整備、丸太階段等の補修を進めることで、ならやまの観察路はとてきれいになりました。安全対策も進みました。



以下、花王助成金の内容として。

活動の1年目、主な観察路2km里山林周辺整備中心に作業し観察路の丸太階段やロープ設置等で安全な通行ができるようになった。対象延参加人数750人。2年目、ナラ枯れ被害の大きい観察路の整備に取り組み、倒木で通行が危険になった自然の森の観察路を、里山Gの協力を得て被害木を集中的に伐採することが出来た。この年でナラ枯れの被害が収束したと思われる。ただ2度の台風被害で、里山林は各所で通行不能になった。対象延参加人数659人。3年目は、前年の台風被害による多数のナラ枯れの倒木を、概ね伐採撤去した。滑りやすい急傾斜に安全ロープを張り、丸太階段もほぼ補修が完了した。対象延参加人数273人(活動中止により予定より人数減)

各年度、自然観察路を利用しての里山林自然観察会や親子を対象とした森林環境教育のシイタケ菌打ち、自然工作、樹木伐採体験、山遊びなどを開催。水生生物の観察や飯ごう炊さん等で子供たちの歓声がならやまに溢れた。また観察路の周辺に植樹(24本)、部分皆伐地域に子供たちによる多数のコナラ苗植樹(約150本)、などを行うことができた。助成金を得て観察路が見違えるように整備されたことに感謝です。

4月9日、ならやまの竹の子が大豊作。2束買ってご近所にもお裾分けできました。とっても美味しかった。タケノコ(竹の子、筍)は、タケ類の若芽。日本や中国などの温帯から亜熱帯で産するものは食材として利用されます。広義には、竹の皮が鞘に付着して離脱するまでのものであれば、大きく伸びていてもタケノコといえます。では、ピーク時は1日で1mも成長するという「タケ」とは、一体何者なのでしょう?



イネ科タケ亜科に属する植物であり、大木のように茎(稈)が木質化する種の総称なのです。タケの周期は約120年、開花後は枯死します。タケとササ…タケは狭義にはササと区別される。稈が成長するとともに、それを包む葉鞘(竹皮)が早く脱落してしまうものをタケといい、枯れるまで稈に葉鞘が残るものをササという。タケの葉には格子目があるが、ササは平行脈。因みに、ササの周期は40年~60年である。

タケの種類…世界で600種とも1200種とも言われる。日本には150種とも、600種とも。日本では青森県から九州の広い範囲で生育するタケ類の内、代表的なものを挙げると、
・マダケ; ベースキャンプの西側に密生。
・モウソウチク; ならやまで、竹の子が大豊作。
・ハチク; アクが少なく、少し甘味。6月が旬。
・キッコウチク; 亀甲状の節。お洒落な杖にも。他にシホウチク、ホテイチク、ヤダケ等々。

タケの利用…タケの茎はほぼ円柱状の中空であり軽量。丈夫でよく撓るので、利用幅が大。竹垣・床材・籠・竹筒等、昔からの生活用具や扇子・茶筌等の日用品・民芸品等も多々ある。

竹は、今も私たちの生活を豊かに支えています。